

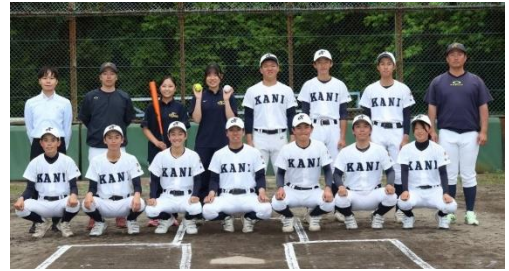
部活動のあゆみ

硬式野球

3年生部長 前田 瞬輝 2年生部長 山岡 幸太郎
部員 29人（3年生 12人 2年生 11人 1年生 6人）

《今年を振り返って》

全員が同じ方向を見て、一体感を保ったまま練習をし続けることができたため、よい集団になることができました。この経験は野球の技術だけでなく、他の様々な部分も成長させてくれました。部活動を通して得た経験や成長は今後必ず役に立つだろうと感じます。44期、45期はこれからより忙しくなるかもしれませんが、その分成長してくれると思います。来年の夏に躍動する姿を見るのが楽しみです。



《顧問のことば》 森口 貴之・山田 篤実・川合 大輔

限られた時間の中でできる準備を全力で行い、よい伝統を作り上げてくれた3年生。その背中を追い、少ないながらも上級生中心にチーム力を高めるために必死に取り組んでくれている1、2年生。日に日に成長していく姿に感心しながら、どうすればより多くの経験をさせてあげられるか考える毎日です。これからも野球人として、一人の人間として成長していつくれることを願っています。



テニス（女子）

3年部長 藤吉 優香 2年部長 小栗 愛奈
部員 21人（3年生 7人 2年生 7人 1年生 7人）

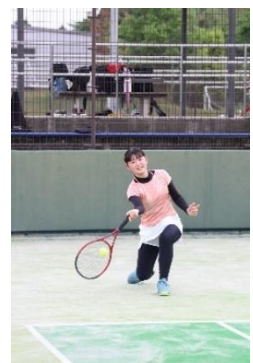
《今年を振り返って》

私たちは出会った人に自分から挨拶することや、限られた時間で効率よく練習するために素早く行動することを意識して練習してきました。また、先輩後輩に関係なく気付いたことを教え合ったり、コミュニケーションをとったりするなど温かい雰囲気の中で選手としても成長しました。この2年半で特別な仲間、先生と出会えて、この部活に入ってよかったと思っています。これからは仲間と共にベストを尽くして頑張りたいです。



《顧問のことば》堀江 菜那・山下 由香理・堀江 和弘

硬式テニス部では、初心者からソフトテニス・硬式テニス経験者までプレー経験はそれぞれ異なります。それを生かした普段の練習では、後輩は先輩から学び、先輩は後輩に教えることにより自分の技術やプレーを見直すことが出来ました。また、部長のリーダーシップのもと、全員で効率よく練習ができており、部全体の士気の向上につながっています。今年度も週に一度、堀江和弘コーチに技術指導をいただいています。チームメイトと保護やの方々からの応援を受けながら、技術的にも団体・個人ともに県大会へ出場できるレベルに向上しています。今後は県大会で1つでも多く勝ち進めるように、さらにレベルアップを目指し日々の練習に取り組んでいきます。



テニス（男子）

3年生部長 久保 宏斗 2年生部長 太田 悠登
部員 26人（3年生 3人 2年生 12人 1年生 11人）

《今年を振り返って》

今年の男子テニス部の活動を振り返ると、特に最後の団体戦が印象に残っています。全員が一丸となり全力で挑んだものの悔しい結果に終わりました。しかし、打田先生の熱血指導を通じて、基礎の大切さや試合に向かう姿勢を再確認しました。技術だけでなく人としての成長もさせていただきました。また、日々の練習で互いに切磋琢磨し、チームとしての絆も深まりました。悔しい結果でしたが部員全員で戦い抜くことができ、最高でした。こんな楽しいテニス部ライフを送れたのは、チームのみんな、そして先生方のおかげです。これからもこの経験を活かし、目標に向かって努力していきます。



《顧問のことば》 打田 幸人・内藤 崇

IH 予選の帝京可児戦では団体戦で全員が一丸となり戦うことができました。結果は残念な結果に終わりましたが接戦の緊張感の中で自分のプレーをすることの難しさをわかってもらえたと思います。テニスは他競技と異なりセルフジャッジがある唯一の競技です。その意味は究極のスポーツマンシップが求められる競技です。それは「他者への尊重」「自ら挑戦する勇氣」「諦めず全力を尽くす覚悟」からなり、テニスを通じて学ぶことが多いと思います。どうか卒業後も続けてもらえるとありがたいです。1, 2年生は3年生の雪辱を果たすべく地区総体準優勝、新人戦団体地区予選突破し結果を出すことができました。スキー競技の教えに「型を学び、山で応用する」これはスキー研究家でドイツ語学者福岡孝行が言った言葉です。型を学び→基本を大切に身につける、山で応用→自然という変化する環境で型を実践し自分の滑りを見つける。テニスも同様で変化に対応するスポーツです。精進を怠らず基本を大切に試合の実践の中で自分にあったテニスを見つけてもらいたいです。



サッカー

3年部長 板津 光晟 2年部長 佐藤 翔
部員34人（3年生 10人 2年生 14人 1年生10人）

《今年を振り返って》

今年は県大会ベスト8を目標に日々活動してきました。限られた時間で工夫して練習を行い、練習試合を重ねることで、チーム力を高めました。その結果、目標の県ベスト8には届かなかったものの、インターハイ予選で県ベスト16まで勝ち上がることができました。後輩には、仲間と声を掛け合い、練習を重ね、チーム力を高め、ベスト8を達成してほしいです。



《顧問のことば》 西 善弘・安達 裕史・岩本 綾佳

週に何度か人工芝のカヤバスタジアムで練習できるという恵まれた練習環境が可児高校サッカー部の魅力です。また、坂戸の人工芝グラウンドも完成に近づいてきました。今年は3年生を中心にチーム力を高め、4年連続インターハイ予選県ベスト16という結果を得ることができました。新チームはベスト16越えの目標達成に向け日々努力を重ねています。大会がある度に成長しているので、今後がとても楽しみです。



陸上競技

3年生部長 今井 菜々乃 2年生部長 日比野 瑛太
部員 16人 (3年生 4人 2年生 3人 1年生 9人)

《今年を振り返って》

今年度は昨年度よりも、練習メニューの種類を増やし、自分たちに足りない練習や、さらに伸ばしたいところなど、試行錯誤しながら取り組みました。その結果、練習に対する意欲が上がり、質の高い活動になりました。また、チームの雰囲気も良く、学年関係なく声を掛け合いながら、練習することができました。大会だけでなく、普段の練習から全員が前向きに取り組める環境づくりをしました。この練習の雰囲気が、大会での仲間の競技の応援やサポートに繋がり、自分のベスト記録更新に繋がったと思います。



《顧問のことば》 亀村 真由・塚原 秀幸

練習場所、時間などが限られている中で、自分たちでメニューを考えながら工夫して部活動に取り組むことができていました。特に今年度は、上級生がリーダーシップを発揮し、陸上競技の技術だけではなく、気持ちの面でも部全体を引っ張って行ってくれたと思います。個人競技ではありますが、チームとしてお互いを励ましあいながら、目標に向かって、自分たちに必要なことを考え、取り組んでいってもらえたらと思います。



ハンドボール(女子)

3年生部長 旗屋 志保 2年生部長 波多野 鈴
部員 31人 (3年生 14人 2年生 8人 1年生 9人)

《今年を振り返って》

今年度は県ベスト8という目標に向けて、限られた時間の中でも自分たちで考え、話し合いながら一生懸命練習に取り組んできました。その結果、新人戦では県4位、選手権大会では県3位という成績を残すことができました。これからさらに県大会で勝ち上がっていけるよう、だれからでも応援されるチームを目指し、一丸となって練習に励んでいきます。



《顧問のことば》 永田 匠・大月 翔子

日々の練習から学年関係なく明るく盛り上げて取り組む雰囲気はこれまでの先輩が築き上げてきた女子ハンドボール部の強みです。インターハイ県予選では目標としていたベスト8という結果を残しました。試合終了まで諦めず戦った3年生の姿は後輩達に良い影響を与えてくれました。3年生が引退して新チームとなり、前年に引き続き県大会ベスト8を目標に日々練習を続けています。限られた時間の中で、どうしたら上手くなるのかを仲間とともに考えてプレーする姿が見られるようになってきました。全員が初心者からのスタートですが、目標に向かってひたむきに努力すれば良い結果を残すことができます。誰からでも応援されるチームを目指し、日々精進していきましょう。



ハンドボール(男子)

3年生部長 守屋 敦 2年生部長 児玉 拓己
部員 35人 (3年生 10人 2年生 10人 1年生 15人)

《今年を振り返って》

今年度は、チームワークと個々の技術の向上に努めました。毎日の練習を重ねていくことで、戦術のコミュニケーションが増え、チームが一丸となることができました。それでも、課題はいくつか残りましたが、最後までこのチームでやり切れたのは、後輩、顧問の先生方、そして学校関係者の皆様の支えがあったことです。本当にありがとうございました。



《顧問のことば》 小野木 淳・青木 孝輔

本校の校訓である「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の精神を体現し、自立した集団に成長してきたと感じます。ハンドボールは近隣中学校や地域にチームがなく、ほぼ全員が初心者から活動を始めました。それでも他校と充実した試合をできるまでに成長したのは、他校の練習を真似たり、動画を研究したりして、3年生が自発的な工夫を重ね続けてきたからです。後輩もその姿勢を受け継ぎ、チームを一層成長させてくれると信じています。



バスケットボール(女子)

3年生部長 渡邊 心陽 2年生部長 山本 ここみ
部員 11人 (3年生 5人 2年生 1人 1年生 5人※内マネ1人)

《今年を振り返って》

私達は6人という少ない人数と限られた時間の中で、皆でプレーの改善点を共有しながら部活動に取り組んできました。与えられたメニューをこなすだけでなく、今の私達に足りない部分を話し合い、練習に取り入れるなどして、主体的に取り組む力を身に付けることができました。誰一人欠ける事無く、最後の大会では地区優勝する事も出来ました。皆、本当にありがとう！次の代も少人数のバスケ部となりますが、楽しむ事を忘れずに一生懸命頑張ってください！応援しています！



《顧問のことば》 水谷 賢司・田中 乃愛

右向け右！左向け左！・・・この1年は訓練の1年でした。個性が強く、皆が違う方向を向き、思うような結果が出ない日々が続きました。時には気持ちがぶつかり合うこともありましたね。言葉では表現できないほどの経験と思いを抱き、最後は納得のいく結果を出せたのではないかと思います。部活動で学んだことをこの先の人生に生かしていきましょう。



バスケットボール(男子)

3年生部長 矢島 希隆 2年生部長 坪内 颯汰
部員 30人 (3年生 10人 2年生 8人 1年生 12人)

《今年を振り返って》

最後の大会では今までにチームで培ったものを出すことが出来、ベスト16という結果を納めることが出来ました。また結果以上にチームが一丸となって一つのものに向かっていくことが出来ました。部活動を通して、技術だけでなく声や応援などがチーム全体の士気を高めることが出来、一人ひとりの成長がチーム全体の成長につながるということがわかりました。



《顧問のことば》 柴山 知美・梨本 陽司

3年生が最後の大会で健闘し県ベスト16という結果を残してくれた。その志を新チームが引き継ぎ、県ベスト8を目標に日々努力を重ねている。部長を中心に、全員が練習や朝練も欠かすことなく個人技とチーム力の向上に努めている。試合後のミーティングでは課題を共有し、学年の隔たりなくコミュニケーションをとりながら、いつも前向きな雰囲気では活気ある練習ができています。今後も主体性やチームワークを培いながら、コート内外での礼儀や気づきを大切にし、バスケットボールを通じて人としても成長し続けられる集団でありたい。



バレーボール(女子)

3年生部長 藤田 海々莉 2年生部長 中田 結子
部員 21人 (3年生 6人 2年生 4人 1年生 11人)

《今年を振り返って》

私たちは、地区大会2勝という目標に向けて、練習に励んできました。1年生が多く入部し、より明るい雰囲気の中で日々努力を重ねてきました。最後の大会では、格上の相手に対しても全力で戦い練習の成果を発揮することができたことが印象に残っています。後輩たちには、限られた時間の中で、仲間と協力しながら全力でプレーを楽しんでほしいと思っています。



《顧問のことば》 栗原 遥・山本 和実

限られた時間の中で1本1本丁寧にプレーすることを意識し、努力した1年でした。自分に厳しく取り組むことや、メンバーに自分の意見を伝えるということは、重要なことですが決して簡単なことではありません。しかし、1人の少しの意識で変わっていくことでもあると思います。バレーボールにおいてだけではなく、自身の取り組む姿勢を自分自身が認め、誇れるような人であってほしいと思っています。



剣 道

3年生部長 都築 乃玲 2年生部長 五十川 沙南
部員 7人 (3年生 2人 2年生 3人 1年生 2人)

《今年を振り返って》

今年度は新しい顧問の指導の下、部員一人一人が技術を磨きながら、部全体として成長を実感できた1年でした。新1年生も加わり新たな仲間が増えたことで日々の稽古にもより活気が生まれました。また、新型コロナウイルス感染予防の規制も徐々に緩和され、公式戦の競技方法や稽古内容が本来の形式で実施できるようになりました。当たり前のことではありますが、改めて剣道の楽しさを味わいながら活動できることに大きな喜びを感じます。これからは、後輩たちがさらに成長を続け、剣道部を牽引していってくれることに期待しています。



《顧問のこぼれ》 永瀬 由香・日下部 まみ

団体戦のエントリー人数が7名のところ3名だったとはいえ、今年度は男女ともに単独チームでIH予選の団体戦に出場できたことが何よりだったと思います。他校に比べると、練習も限られ、練習試合の機会も決して多くはありませんが、そのような状況であっても個々の課題を認識し、課題克服に向けて一人一人が取り組んでいると思います。公式戦では思うような結果が得られていませんが、諦めることなく、これからも互いに声を掛け合って頑張っていければと思います。

卓 球

3年生部長 加知 来人 2年生部長 西 奏大
部員 18人 (3年生 5人 2年生 6人 1年生 7人)

《今年を振り返って》

卓球部は『誰からも愛されるチーム』を目標にして挨拶や礼儀などを大切にしながら毎日練習に励んでいます。団体戦では「県大会ベスト8」を目標に、時には合宿で絆を深めたり、時には「本当にこのままでいいのか」と話し合いをしたりしながら一心に目標達成のために練習をしてきました。その結果、岐阜県高校新人卓球大会では男子が念願のベスト8を達成することができました。個人戦でも一人一人が自分の目標を明確にし、試行錯誤しながら取り組んでいます。昨年に引き続き、東海選手権大会シングルスに3名出場することができました。今後も応援してくださっている方への感謝を忘れず、頑張ります。



《顧問のこぼれ》 野村 茉椰・小林 竜二郎

昨年は先輩が築き上げた秩序ある部活動の雰囲気を土台に「勝ち」につなげることを目標とした1年でした。今年度はその「勝ち」を継続し、今年こそは目標達成をするぞという気持ちで頑張りました。特に今年度の3年生はこれまでたくさん悔し涙を流しましたが、最後の大会であるインターハイでは目標は達成できなかったものの清々しい顔をしていました。嬉しかったです。目標が達成できなくてもあの顔ができるということは、これまでの過程に悔いがない証拠だと思います。それが顧問としては本当に嬉しかったし、きっとこの先もどんなことも努力し続けられるのだと思いました。1・2年生はインターハイ予選まであと数か月です！各々の立場によって、今抱えている思いが違うと思います。その気持ちから目をそらさず、真摯に向き合い最後まで頑張ってください。

バドミントン(女子)

3年生部長 廣江 咲希 2年生部長 佐藤 詩月
部員 11人 (3年生 4人 2年生 4人 1年生 3人)

《今年を振り返って》

初心者が多かったため、基礎練習をし、個々のスキル向上に努めました。人数が少なかった分、質の高い練習ができ、充実した部活動になったと感じています。大会では思うような結果が出なかったこともありましたが、全員が一丸となって努力し、互いに助け合うことで大きな成長に繋がりました。また、顧問の先生やコーチの丁寧な指導のおかげで少しずつ技術や戦術を学ぶことができました。後輩にも支えてくださる方々への感謝を忘れず、今まで以上の結果を残せるよう、毎日の練習を全力で取り組んでいってほしいです。



《顧問のことば》 浅野 太一・松葉 瑤・鶴見 亮斗

精神面・技術面で大きな支えであった3年生が引退し、さらに部員も大きく減少した状態で始まった新チームにおいて、どのように練習するか悩み、苦勞したことも多かったと思います。その中で、自分達で質の高い練習をするために工夫し、お互いに協力することで少しずつ充実した部活動の時間を過ごすことができました。人数が少ないからこそ発揮される互いに支え合う姿は、確実に後輩たちにも受け継がれていくことでしょう。



バドミントン(男子)

3年生部長 大脇 耕哉 2年生部長 小林 直翔
部員 30人 (3年生12人 2年生10人 1年生8人)

《今年を振り返って》

今年のバドミントン部は、困難の中でも着実に成長を目指した一年でした。少ない練習時間でしたが、その分、日々の練習で基礎を磨き、一人一人が課題に向き合いました。特に基礎技術やフットワークの向上に取り組み、部員同士でアドバイスを交換しながらお互いを高めあう環境を築くことができました。厳しい状況もありましたが、部員の結束力が高まり、笑顔の絶えない明るい雰囲気の中で活動を続けられたのは大きな収穫です。



《顧問のことば》 浅野 太一・松葉 瑤・鶴見 亮斗

快活な生徒が多く、部員同士の仲が良い明るいチームでした。高校からバドミントンを始めた生徒も多くいましたが、明るい雰囲気の中で、お互いに教え合うことで前向きに技術を向上させることができました。試合ではなかなか勝つことができず、苦しい時期もありましたが、途中で投げ出すことなく、最後の試合まで粘り強く取り組むことができたと感じています。自分の思うように事が進まない時に、互いを支え合えたことが大きな財産になっていることでしょう。

弓 道

3年生部長 北村 惟人 2年生部長 林 祐希
部員 50人(3年生 13人 2年生 24人 1年生 13人)

《今年を振り返って》

今年度は昨年度を振り返り、更に上を目指すために必要なことを考え、練習を試行錯誤しながら活動しました。特に、県大会ベスト4の目標に向け、去年冬の大会で痛感した自分たちの弱い部分や足りない部分を話し合い、それを補うための練習を取り入れました。また、練習中にお互いに意見を言いやすい雰囲気づくりを大切にしました。その結果、3年生だけでなく、1、2年生もお互いに射形を見合い、切磋琢磨していけるようになっていると感じました。仲間と協力して高めあえる環境を受け継いでいってほしいと思います。



《顧問のことば》 佐々木 恵太・長江 優衣・中島 幸子

3年生は最後のインターハイ地区大会にて、男子団体が予選通過という結果を残した。県大会でも、これまでの集大成となる射を披露してくれた。3年生は、後輩への指導も積極的に行ってくれたことで、後輩に多くの財産を残してくれた。3年生が引退した後、2年生が部の運営をしっかりと行っており、引き継ぎ、良い雰囲気で練習ができている。ただ、練習中の集中力、行動の主体性などの面ではまだまだ改善の余地があるので、部員全員で意識を高くしてほしい。秋の選抜大会では、女子団体が県大会に出場することができたが、県大会では力を発揮できなかった。冬の新人大会、夏のインターハイでは、地区予選突破はもちろん、県大会で上位入賞できるような射、練習を心がけてほしい。



ウェイトリフティング

3年生部長 山口 裕太 2年生部長 富田 銀太郎
部員 15人(3年生 1人 2年生 7人 1年生 7人)

《今年を振り返って》

今年は昨年に続き一年生が多く入部し、活気のある雰囲気の中で練習に励むことができました。各部員が自己ベストを更新できるよう、基礎トレーニングに様々な技術的トレーニングを組み合わせた練習メニューに地道に取り組みました。その結果、今年度は東海大会や全国大会に出場する選手が昨年度よりも増え、大きな成果を収めることができました。来年度も各自が自己ベストの更新を目指して練習に励み、東海大会、全国大会への出場をめざしてください。



《顧問のことば》 加藤 泰幸・杉山 明里・築田 昌明

今年度も一年生が多く入部し、練習の雰囲気もより活気のあるものになりました。部長を中心に、選手同士が疑問点を話し合ったり、アドバイスし合ったりという場面が数多く見られました。高い目標を掲げ、自分の課題を意識しながら練習し、東海大会や全国大会に出場する選手が昨年以上に増えたため、それが刺激となって他の部員の意欲も高まるという好循環が生まれるようになりました。お互いが切磋琢磨し合える雰囲気を今後も維持し、来年度はより多くの部員が高い目標を達成できることを願っています。



アーチェリー

2年生部長 久野 友愛

部員 3人 (3年 0人 2年 1人 1年 2人)

《今年を振り返って》

5月のインターハイ予選は2年生1名だけが参加した。自己ベストを残せるよう、コーチに改善点を聞きながら練習をしてきた。記録を残すことはできなかったが、1年間積み上げてきた成果を発揮することができた。2年生は試合に向けて練習し、フォームを改善しながら日々成長してきた。1年生はアーチェリー初心者であったが、フォームを身につけ30m的をクリアし、長距離でも的中することを目指し、少しずつ弓を強くしながら技術を向上させている。新人戦では部員それぞれが、自分の力を発揮することができた。少人数での活動のため、一人一人がコーチから手厚い指導を受けることができ、短期間でも大きく成長することができた。

《顧問のことば》 田中 里香・石原 久美子

今年度1年生が2名入り、部員は3名となった。少人数ではあるが、新人選に向けて各自が目標を掲げ日々の練習に励んできた。2年生は1名であるが、目的意識を持ちこつこつ取り組む姿は新入部員にも受け継がれており、向上心を持ってお互いに声をかけながら良い雰囲気の中で練習ができている。その結果10月に行われた県の新人大会では、女子個人で優勝を果たした。10月の大会後は、さらに高い意識を持ち来年度の春季大会、インターハイ予選に向けて自らと向き合い、射形を改善し、自己ベストを更新するために、日々努力を積み重ねている。

吹奏楽

3年生部長 平井 創

2年生部長 田倉 ひばり

部員36人 (3年生 10人 2年生 9人 1年生 17人)

《今年を振り返って》

4月末に開催した、3年生最後の演奏となる定期演奏会は無事に大成功を収めました。そこまで紆余曲折ありましたが、最後まで部員が一丸となり音楽を作り上げることができました。夏のコンクールにおいては出場団体の中で最も人数が少なかったですが、地区大会を勝ち抜き、二年連続で県大会に出場できました。今年度のカニタカスイブはしながら「少数精鋭」で、一人一人が強く、堅い意志を持った音を奏で、それらが擦り合わさることで音楽を紡いでいたのだと改めて感じます。これは我が部の誇りです。



《顧問のことば》 加藤 紫帆・山口 和諒・飯田 香苗・三浦 幸二

新1年生を迎え、カニタカスイブが盛り上がってきました。どの楽器も決して欠くことはできないという責任感をもち、基礎練習を重視して取り組むことができています。困ったときには互いに助け合いながら、練習メニューを再考し、運営することができました。本番での演奏一つ一つが経験となり、みんなでよりよい演奏を作り上げていこうとひたむきに取り組む姿は、演奏を楽しみに聞いてくださる方々の心を動かしていることだと思います。先輩方から学んだ力を引き継いでいくことができるよう、今後も励んでいきましょう。



文 芸

3年生部長 福重 遥 2年生部長 岩田穂乃香
部員 18人（3年生 3人 2年生 10人 1年生 5人）

《今年を振り返って》

文芸部では、月に1回、『原色』というタイトルの雑誌を刊行しました。今年度は部の活動を知ってもらうためにも、新しく SNS 上での活動を始め、多くの人に部活動について情報を発信することができました。文化祭では、前年度に引き続きリレー小説の制作を含めた計3冊の大作を仕上げることができました。今年度進めていた文芸部の特色を生かした地域との連携の活動の促進を目指していきます。



《顧問のことば》 渡部 正実

創部以来、文芸部は季刊誌『原色』を発刊している。昨年1年間、前任の内田敦子先生が「部活動に探究的な活動を取り入れる」動きを指導され、それが今年度も継続できた。今年度2年生のチーム名、その名も「ロゴ部」！部活動で培った「抽象化」能力を活かし、クライアントの想いや課題感をロゴに落とし込み、提案をするという企画を運営した。校内で数件依頼を受け、製作を行ったと報告を受けている。また、可児市役所産業振興課・岐阜医療科学大学の企画として実施された「消費者教育ノベルティアアイデアコンテスト」に参加し、地元デザイン会社のレクチャーや岐阜医療科学大学の学生さんとの混成グループでニーズや訴求ポイントを話し合い、ノベルティ商材の選択、加工の指定などのアイデアをまとめてプレゼンテーションにも参加した。自分たちで企画・計画して行動する姿から「高校生の自主的な活動としての部活動」としての在り方が一つ示せたのではないかと思います。



科 学

3年生部長 安江 以緒太 2年生部長 奥田 哲平
部員14人（3年生 3人 2年生 7人 1年生 4人）

《今年を振り返って》

2年生は「物体検出プログラムを利用した人数の集計とその活用」という研究を行い、県の研究発表交流会で発表することができました。もう一つのテーマとして「コラッツ予想」という数学に関する研究テーマで研究を行いました。1年生はサイエンスフェアに参加し、「ガリガリ風車」を出展しました。文化祭では液体窒素を用いた実験ショーをおこない、参加者に楽しんでもらいました。今年は集団としての活動を通して協調性・社会性を身に付けることができました。しかし、部員全員が常に科学への関心をもって活発的に研究できたとは言えません。来年はこれらの課題を改善し、よりよい活動となるようにしていきたいです。



《顧問のことば》 岡崎 正路・長谷川 桃子

1年生は7月にサイエンスワールドの「サイエンスフェア」というイベントに出展し、子供たちに工作を教える経験をしました。また同時に他の出展者とのつながりができ、東京大学のボランティアサークルからの招待で、なんと大阪で開催された「全国科学教育ボランティア研究大会」に参加することになり自分たちの経験を発表することができました。全国と名のつくイベントに参加し、自分たちのボランティア成果を発表できたことは貴重な経験となりました。2年生は個別に研究をおこない、プログラムによって交通事故の問題解決のための糸口を探ろうとする研究や、難しい数学の難問を考え自分なりの数式を導き出した研究など、これまでに無い斬新なものがあり、科学部らしい活動ができたと思います。来年度に向けて更なる進化を期待しているところです。

茶 道

3年生部長 石田 栞 2年生部長 矢島 知奈
部員25人（3年生 9人 2年生 9人 1年生 7人）

《今年を振り返って》

今年も新たに部員が入部し、より和気あいあいとした雰囲気の中で活動をおこなうことができました。お点前や作法についてわからないところがある場合は、お互いに教え合い、上達できるよう努めてきました。文化祭の中で行われた清新茶会ではお点前を披露し、お客様にもお茶と和菓子を楽しんで頂き、会を無事成功することができました。



《顧問のことば》 丹羽 和子・堀部 千恵子

今年度は3学年合わせて25人の部員で活動しました。講師の堀部先生に、茶道具の扱い方、表千家のお点前の作法等を詳しく丁寧に教えていただいています。初心者で入部する生徒がほとんどですが、意欲的に取り組み、茶席での作法も上達しています。また、今年度も昨年度に引き続き茶道部として文化祭に参加しました。部員が考案した創作和菓子は、季節にふさわしい色合いや名前を考え、晩夏の季節感を味わっていたるように工夫を凝らしました。お茶会のポスター作成は、1年生一人ひとりが茶道の雰囲気を味わっていただけるように、イラストや写真を取り入れました。実際のお茶会では、手作りの飾り物でお茶席を配置しました。3年生は立礼のお点前を円滑にすすめ、2年生はお客様にお茶をお運びし、1年生は裏方として頑張りました。校外での活動は、コロナにより縮小されておりましたが、11月3日の土田地区まつりでは、地区の方々に可児高校茶道部員2年生がお抹茶を振舞う活動も実施できました。来年度も今年度以上の活動ができることを期待しています。



書 道

3年生部長 岩本 薫 2年生部長 渡邊 栞有
部員24人（3年生 7人 2年生 9人 1年生 8人）

《今年を振り返って》

今年は部員全員が今まで以上に強い意欲をもって活動しました。個人作品では部員同士が自主的に作品を評価し合うことで作品の質が向上しました。文化祭では大人数の強みを活かしたパフォーマンスを披露しました。文字を書く過程も作品の一部と捉え、細部までこだわり抜いたことで、これまで以上の完成度を実現しました。部員全員が同じ目標に向かって努力し、充実した一年となりました。



《顧問のことば》 國枝 希咲・田之本 麻衣子

今年度も、文化祭のオープニングで書道パフォーマンスを行い、10月に岐阜市で開催された「第12回書道パフォーマンス大会」にも出場し、大勢の観客の前で作品を仕上げることができました。また、ぎふ総文では、部員が全国から集まった生徒たちと交流を行い、作品づくりにおいてとても良い刺激になりました。個人活動では、5年ぶりに県代表に選ばれ、全国大会に出場を決めました。納得するまで何度も書き込み、文字についてアドバイスをし合いながら、生徒たちは日々成長しています。来年度も引き続き、時に協働し、時に切磋琢磨しながら、充実した活動ができることを期待しています。



囲碁将棋

3年生部長 武田 宙 2年生部長 永井 一成
部員 26人（3年生 9人 2年生 8人 1年生 9人）

《今年を振り返って》

今年は新しく入部してきた1年生が入部当初から実力を発揮し、5月の県選手権大会では複数名が予選トーナメントを突破し、最大でベスト16になるなどデビューの大会から素晴らしい成績を残しました。また、昨年から将棋を指し続け棋力を付けた2年生や3年生も成長し、勝つ試合も増えました。それでも、大会では良い成績を残すことができなかったのも、1、2年生には更に棋力をつけて、決勝トーナメントを勝ち上がってほしいです。



《顧問のことば》北川 雅也・佐藤 正樹

今年度は1年生の部員も多く入部し、先輩後輩間でもお互い切磋琢磨し、技術を磨いていくことができた。公式大会において、5月の将棋選手権大会では、女子団体が県2位と3位の成績を収めた。また、男子個人でも決勝トーナメントに勝ち進むなど、健闘した。7月の竜王戦では、昨年度は叶わなかった決勝トーナメント進出を3名が達成し、成果を上げた。7月と3月に行われる東海三県高校将棋大会にも参加し、岐阜県内はもちろん、愛知県や三重県の強豪校との対局を経て、良い経験をすることができた。さらに今年度はぎふ総文祭が岐阜県高山市で開催され、部内からの出場はできなかったが、部員6名が全国大会の運営を経験し、全国大会特有の雰囲気や緊張感を体験することができた。今年度の経験を活かし、次年度の大会に向けて今後も精進していきたい。

